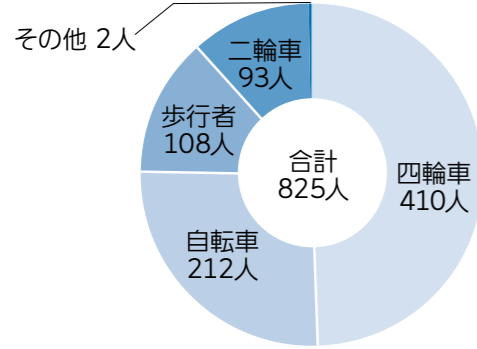


狭山市の交通事故に関するデータ(4年1月～12月)

狭山警察署管内の事故による死傷者の内訳



人身交通事故の発生状況

埼玉県	発生件数	16,576件
	死者数	104人
狭山市内	発生件数	379件
	死者数	4人

市内でもこれだけ多くの事故が発生しているんだね



歩行者はここに注意!

死傷者の多い事故を防ぐためのポイント

自転車乗車中はここに注意!

- 信号を守る
- 歩道や路側帯などのない道路は右端を通る
- 横断歩道の近くでは必ず横断歩道を渡る
- 斜め横断や車両の直前、直後の横断はしない
- 急な飛び出しはしない
- 夜間は反射材を着用する



- 自転車は車道が原則、左側を通行歩道は例外、歩行者を優先
- 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
- 夜間はライトを点灯
- 飲酒運転は禁止
- ヘルメットを着用\*



\*道路交通法の改正により、4月1日から全ての自転車利用者に対し、乗車用ヘルメット着用努力義務が課されることとなります。大人も子どもも自転車に乗る時は「命を守る乗車用ヘルメット」をかぶりましょう

交通指導員に聞く  
交通ルール・マナー  
～日常に潜む危険から身を守る～

通学路での交通安全の確保や指導のほか、子どもに限らず高齢者などへ交通ルールや正しい横断歩道の渡り方などを教える交通指導員。今月はその指導員に、現場で感じることや交通事故をなくすために必要なことを伺いました。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
SDGsの関連アイコンを特集ページに標記しています

「二人一人が交通ルールを守る」  
その意識が事故を防ぎます

通学路では  
子どもの飛び出しに気を付けて

小学生の下校時や帰宅後に危険な様子を度々目にします。登校班で通学するときよりも、お友達との下校、遊びに行くときはどうしても注意が散漫になってしまふ場合が多いようです。歩行者の交通事故の多くが飛び出し事故。この事故は、歩行者も車も危険を予測し、一度止まって確認をすることで防げます。

自転車は車の仲間です

自転車は自分が事故に遭うだけではなく、人を傷つけてしまうこともあります。自転車は車の仲間です。小学生は、一人でも自転車に乗れるからといってすぐに道路に出るのではなく、各家庭で繰り返し運転技術とルール・マナーを教えることがとても大切です。また、高齢者の方は無理な乗り方をすることで、加害者と被害者のどちらにもなり得ます。自分の体力、技術・判断力を過信せず慎重に乗ってほしいと思います。

指導員として  
心掛けていることは

通学路に立つときには、その場を完全に横断させるのはもちろんですが、子どもたち自身がいくつになっても安全に過ごせるように、しっかりと交通安全ルール・マナーを身に付けてもらいたいという思いで指導することを心掛けています。交通ルール・マナーを守ることが、悲しい事故を防ぐことにもつながると思います。



狭山市主任交通指導員  
坂口 順子さん  
主に南小、入間野小の校区を担当。  
交通指導員歴23年。

交通指導員を募集しています

- 勤務内容** 小・中学校の登下校指導や交通安全教室など
- 勤務日時** 月～金曜日の7時30分～8時30分と下校時1時間、交通安全教室実施日など
- 勤務地区** 市内全域 ※担当校区は居住地を考慮します
- 採用期間** 5年4月～6年3月
- 募集人員** 若干名
- 賃金** 月額6万1千円から(時間外手当あり。金額は4年度時点のもの)
- 申込み** 事前連絡の上、履歴書を持って交通防犯課へ



問合せ 交通防犯課へ内線 3693